

平成 29 年度 第 2 回 弘済ケアセンター
認知症対応型通所介護 運営推進会議 議事録

□ 日 時 平成 29 年 12 月 19 日 (火) 13:10~14:25

□ 場 所 弘済ケアセンターホール、ホビー室

□ 主 催 弘済ケアセンター □書 記 弘済ケアセンター管理者 中川昌弘

□ 出席者 (7 名)

- ・ 知見を有する者 グループホーム管理者
- ・ 地域住民の代表 民生委員
- ・ 地域包括支援センター 連雀地域包括支援センター
- ・ 利用者ご家族 A 氏 (〇〇氏の長女)
- ・ 弘済ケアセンター 管理者、生活相談員、介護職員

□ 議事内容

1) ホールにて忘年会行事を見学

2) ホビー室に場所を移し、意見交換

- ・ 本会議の主旨説明、参加メンバーの紹介。
- ・ 今回の忘年会行事に関する説明。

通常は、運営基準に沿って一般の通所介護と認知症対応型通所介護を分けて活動しているが、年間 2 回程度、夏まつりと忘年会の行事については、全ての利用者合同で実施している。

出し物は通常の活動単位で取り組んでおり、数週間前から、企画の検討、小道具の制作、発表の練習等に継続的に取り組んできた。機運を盛り上げつつ、それぞれのメンバーに応じた役割を設定し、準備してきた。

- ・ ご家族より

自宅で本人から桃太郎の出し物をやることになっており、おばあさんの役であるが膝が悪いのでできないとの話が出たり、座っていればよいと言われたとの話も出ていた。具体的にどんなことをするのか想像できないでいたが、実際に観て、利用者個々が無理なく参加できるよう工夫されていると感じたし、内容も面白く楽しめた。

⇒ご自宅に帰られてからも話題になっていたとは知らず、嬉しく思います。

- ・ 構成員より

グループホームでは、外出する行事が中心になっているが、施設内での行事の工夫も必要だと思った。

- ・ 構成員より

利用者によっては、参加、出演を嫌がることはないのか？

⇒利用者によっては、又はその日の状況によっては拒否的な反応を示される場合もあるが、無理強いすることなく接している。実際、今日も眠気があり、拒否的な気分の強かった利用者には見学していただいていた。その利用者も、日によっては楽しめることもあり、利用者個々のその日の状況を見ながら、丁寧にかかわることを心掛けている。

- ・ 構成員より

通所サービスの歴史のある弘済ケアセンターならではの、イベント運営に関するノウハウがあり、進行や展開が上手で安心して観ていられた。認知症だけでなく、様々な障害を持つ利用者が、色々な場に参加することや、普段とは異なる環境にも適応できるよう工夫されていることが良いと思った。

⇒原則として、運営基準に沿って、サービス種別ごとに独立運営することを基本としているが、認知症対応型通所介護の利用者も、より大きな規模の場面に、程良い緊張感を持って参加し、一緒に楽しめることも大事にしたいと考えている。また、普段一緒に活動している仲間関係だけでなく、送迎バスで一緒になる仲間、昔からの近所の顔見知りといった地域ならではの仲間関係も大切にしている。

- ・ 構成員より

傾聴ボランティアとして、時々送迎待機の時間にケアセンターに来ているが、利用者同士がお互いに支え合う、助け合う雰囲気があるのが良いと思う。

- ・ ご家族より

BGMが流されているようだが、情緒的安定等の効果を狙っているのか。

⇒普段から、有線放送を活用して、活動の邪魔にならない音楽を流している。行事等の際は、季節感のある楽曲を流すことで、機運を盛り上げたり、雰囲気づくりに活用している。

- ・ 構成員より

認知症対応型通所介護事業の利用状況はどうか。

⇒全曜日ともほぼ定員の12名程度を登録している。本事業は、運営基準上、事業実施日ごとの定員管理が求められている一方、短期入所サービスを利用する方も多く、定員に対する利用率は70%強となっている。計画上の決まった曜日以外の単発利用に取り組むなどして、何とかこの利用率であるが、他の事業所も50%を超えるのがやっとなどと聞いており、月平均の定員管理に運営基準が改定されることを希望している。当センターの場合、一般の通所介護事業を併設しているため、認知症枠がいっぱいでも、一般枠で利用してもらう工夫はしている。